

平成15年1月1日

(第55号)

鶴 戸



鶴戸神宮ホームページ <http://www.m-surf.ne.jp/~udo/>

発行者兼編集者
鶴戸神宮 社務所

謹んで新年の御祝詞を申し上げます



宮司 杉田 秀清

新春を寿ぎ、聖寿の万歳をお祝いし、皇室の弥栄を謹んでお祈り申し上げます。並びに国家の隆昌と氏子崇敬者の皆様方の益々のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。

鶺鴒より眼下に広がる朝日に輝く大海原を見ますと、打寄せる波濤にも新しき年を寿ぐ新鮮さを感じ、日時刻と変わる社前の波打際の壮大さをみると、太古より変わりにない、大自然の躍動に神秘的な感動を覚えます。山々は自然のまゝの常緑樹林の中に、「大谷渡り」や国指定の文化財「鶺鴒へゴ」が繁り、

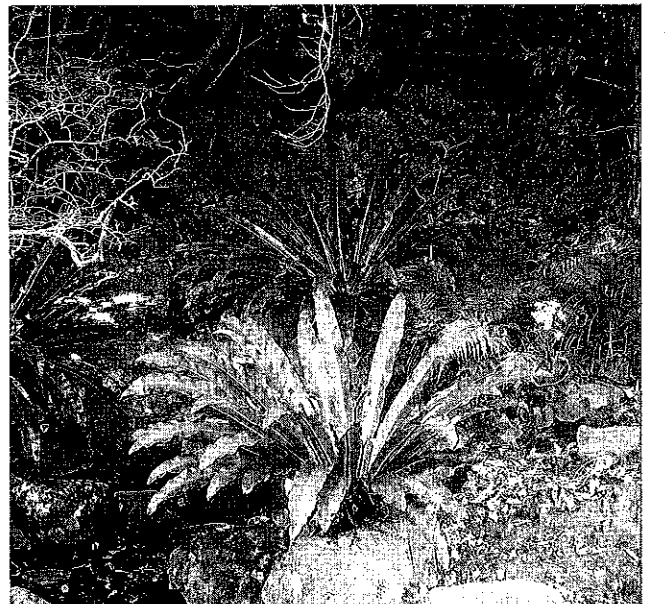
「磯鴒」「鶺」「目白」「鶺」が飛び交い、「猿」「狸」それから「猪」が出没します。

「瓜坊」の可愛さには眼を細めますが、一方では三頭程の親猪と六頭の瓜坊が境内に出て花木を折ったり、庭土を掘り起したり、狼藉で、参拝者に危害を加えなければよいがと危惧しています。

大海と奇岩、森と動物達、「ツマベニチヨウ」を代表する昆虫などなど……。これら自然が渾然として、古くより変わらない鶺鴒山の奥深さを感じます。そして霊窟の中に朱塗のご社殿がよく調和して神鎮ります。

元且午前零時に齋行された歳旦祭は、太鼓が霊窟の中に響き渡り、若水を汲み、ご神饌を供えると、初春を寿ぐ、多くのご参拝者で、初日の出を迎える時刻まで股賑を極めました。翌二日は「初日供祭」三日は「元始祭」と続きます。

本年も、鶺鴒神宮では二月一日に「例祭」を齋行致します。その他「縁日祭」など年間に六十七回のご神事がとり行われます。すべて、古くより今日まで連綿と続いたものであります。どうかこれからの祭典や奉祝行事が、皆様のご参列、ご協力のもと賑々しく齋行されますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



大谷渡り



ツマベニチヨウ



磯鴒

抜穂祭 齋行

御田植祭を春二月に齋行。毎月十五日を御神田月次祭と定め、稲の生長を祈願してきた。

され、責任役員、総代はもとより地区の老若男女六十余名の参列を賜った。祭典では、田の神の御降臨を迎え齋主が祝詞を奏上。順調な稲の生育に感謝した。抜穂の儀においては、齋主が抜き取った稲穂を御神前

に奉納し、編みがさ、かすりに赤いタスキ姿の刈女九人が刈り取った稲穂を、田主が神前に供えた。祭典終了後は、区民の方々、ハツピ姿の小学生も参加して稲刈りが行われた。御神前に奉納された稲穂は伊勢神宮に懸税として奉納され、収穫された新米は、十一月二十三日の新嘗祭で御神前に供えられた。

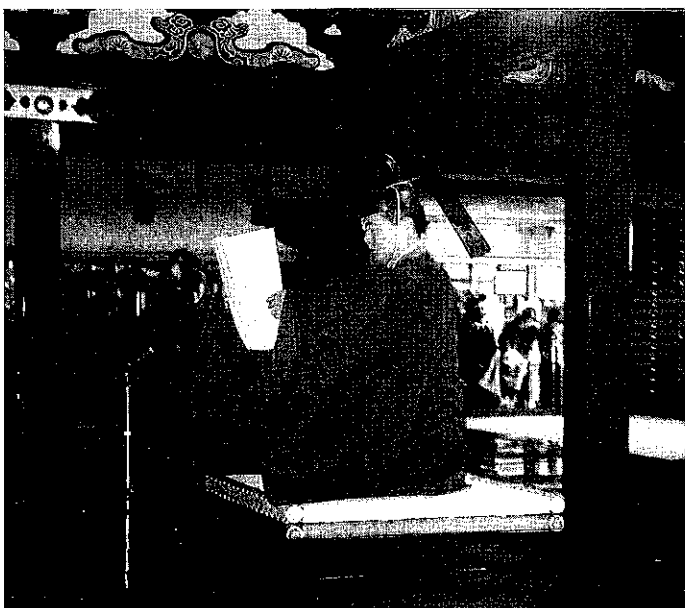
新嘗祭 齋行

十一月二十三日、新穀を神々にお供えし、その収穫に感謝する新嘗祭が全国の神社で齋行された。

菜、果実、菓子等の地場産品が奉納された。祭典は、午前十時三十分より、宮司以下役員により厳修され、宮司祝詞奏上の際、鶺鴒小学校四年生七名により収穫に感謝する「こども神楽」が奉納された。



初穂を奉納したのち全員で刈り取り



宮司祝詞奏上



琵琶を奏でる中村鶴城氏



豊栄の舞



受講生は、両先生の熱心な御指導を受け、さらなる舞の向上を目ざし練習を続けている。



子供の健やかな成長に感謝し、これからの無事を神様にお祈りする七五三詣りは、古くより行なわれてきた大切な人生儀礼である。一般に三歳の男女は「髪置」、五歳の男子は「袴着」、七歳の女子は「帯解」の祝いといわれている。当神宮でも、十一月に入ると晴着をまとった子供たちで賑わった。参道には当神宮ゆかりの「うさぎ」のぬいぐるみを準備。お祝いの子供たちと記念撮影をした。

蘭陵王 豊栄の舞講習

七月十二日より十四日までの三日間、京都より田中克宣氏(当神宮旧職員を講師としてお迎えして舞楽「蘭陵王」の講習が行われ、神職三名が受講し御指導いただいた。

九月十七日、十八日の両日は祭祀舞講師 蛭原典子氏をお迎えして「豊栄の舞」の講習が行われ、神職一名、巫女十名に御指導いただいた。

七五三詣

子供の健やかな成長に感謝し、これからの無事を神様にお祈りする七五三詣りは、古くより行なわれてきた大切な人生儀礼である。一般に三歳の男女は「髪置」、五歳の男子は「袴着」、七歳の女子は「帯解」の祝いといわれている。当神宮でも、十一月に入ると晴着をまとった子供たちで賑わった。参道には当神宮ゆかりの「うさぎ」のぬいぐるみを準備。お祝いの子供たちと記念撮影をした。



献穀の舞



柳の舞



鈴の舞



エビスの舞



浦安の舞



鵜戸さん獅子舞



納曾利

明治祭 秋の縁日大祭 斎行

十一月三日、明治祭並びに秋の縁日大祭が責任役員、氏子をはじめ多数の参列を賜り、午前十時三十分より厳粛に斎行された。

明治祭は、近代日本の礎をお築きになられた明治天皇の御偉業をたたえ、御誕生の日をお祝いするお祭りである。

縁日大祭は古来、春三月の祭礼日に大勢の参拝者で賑わったと伝えられており、この事を奉祝する為、春と秋の年二回斎行されている。

奉祝行事として、御神前にて「浦安の舞」、「鵜戸さん獅子舞」、舞楽「納曾利」、「豊栄の舞」が演舞された。

又、今回は東京都在住の中村鶴城氏により琵琶も奏でられ、参拝者はさかんにカメラ、ビデオにおさめていた。

参道では三日・四日の両日、地場産品フェアが開催され賑わった。

平成15年厄祓一覧表(但し、数え年)

Table with columns for gender (女性, 男性) and age groups (昭和48年, 昭和47年, etc.) listing the corresponding '厄' (厄年).

厄入・厄祓・厄明のご案内
厄年は人生の転機にあたり、心身共に苦勞の多い年令と
言われています。
年の始めに御参拝を賜り御祈禱を受けられまして、本年も
無病息災にてお過ごし下さいませよう御案内申し上げます。

Calendar table for平成十五癸未年鵜戸神宮御神事一覧表(一月〜六月) showing dates, times, and festival names.

- List of names and titles associated with the calendar events, including 宮司 杉田 秀吉, 禊 友謙, etc.

賀正

社務日誌抄



- 1月1日 歳旦祭
1月3日 元始祭
1月29日 鹿兒島県護国神社
1月30日 宮崎県 霧島東
2月1日 例祭
2月3日 第49回剣法発祥
2月7日 鵜戸稲荷神社例
2月11日 紀元祭
2月17日 祈年祭
2月27日 山梨県神社庁教
3月7日 春の縁日大祭
3月14日 北海道 各青神
3月17日 御田植祭
3月20日 責任役員会
3月23日 春の縁日大祭
3月24日 第16回シヤンシ
3月31日 宮崎県 霧島東
4月17日 祐徳稲荷神社祓
4月22日 祐徳稲荷神社祓
4月25日 祐徳稲荷神社宮
4月26日 責任役員会
4月30日 氏子・崇敬者総
5月5日 節句祭奉祝行事
5月14日 都農神社宮司
5月17日 永友元夫氏他4
5月21日 鵜戸神宮敬神婦
6月5日 殿島神社祓宜
6月12日 殿島神社祓宜
6月30日 大祓式
7月6日 天皇皇后両陛下
7月21日 天皇皇后両陛下
8月21日 中目黒八幡神社
9月11日 宮崎神宮末社
9月23日 新嘗祭
9月31日 大祓式・除夜祭



祐徳稲荷神社宮司 鍋島朝倫氏他



殿島神社祓宜 福田久氏他



宮内庁桃山陵墓監区所長 高田慶昭氏他

奉仕作業

七月十四日、責任役員、氏子総代により別当山墓地横から吾平山御陵遥拝所までの約一〇〇メートルに渡り、チェーンソー等を使って伐採作業が行われた。

この遥拝所は、昭和二



十年代までは参拝者がお参りしていたそうだが、遥拝所に通じる参道が山崩れの為参拝できなくなると、しだいに雑木で覆れ、参道も遥拝所も分からなくなっていた。

この事を優い、氏子総代で話し合いが行われ、この日の作業となり、約半世紀ぶりに遥拝所と参道が姿を現わした。

掛軸 太刀奉納

当神宮責任役員 和田皓氏より、第五十一世別当法印隆峯書(江戸時代)の掛軸一巻、串間市在住の深江博美氏より、太刀一振が奉納された。

奉告祭は、九月十六日午前十一時より御本殿にて斎行され、感謝状が手渡された。



深江夫妻(中央) 和田氏(右)

境内の植物

ツワブキ

秋の終わりから高さ約六〇センチの花茎を立てて、

黄色の花をつける。



ハマユウ

日本の暖地の海岸に自生している多年草。夏には花

茎の先に十数輪の白い花が開く。

